

高槻 まちかど遺産 H25-10



御坊之内

きょうぎょうじ
 教行寺の南と西の一带は、かつて「御坊之内」「御坊内町」といいました。

れんによ
 浄土真宗(一向宗)中興の祖・蓮如は、文明8年(1476)、室町幕府の管領・細川勝元に与えられたこの地に富田道場を開きました。

とんだごぼう
 道場はのちに教行寺となり、「富田御坊」とも称され、ここを中心に富田寺内町が形成されました。

しないまち
 浄土真宗では拠点寺院を「御坊」といい、御坊之内という地名は、富田寺内町の中でもまさしく中心地であったことを表しています。



江戸前期の富田『高槻市史』より

平成 26 年 3 月 高槻市教育委員会

御坊之内

教行寺の南と西の一带は、かつて「御坊之内（ごぼうのうち）」「御坊内町」といいました。

浄土真宗（一向宗）中興の祖・蓮如（れんによ）は、文明8年（1476）、室町幕府の管領・細川勝元に与えられたこの地に富田道場を開きました。

道場はのちに教行寺となり、「富田御坊（とんだごぼう）」とも称され、ここを中心に富田寺内町が形成されました。

浄土真宗では、拠点寺院を「御坊」といい、御坊之内という地名は、富田寺内町の中でもまさしく中心地であったことを表しています。

平成 26 年 3 月 高槻市教育委員会

※01 寺之内に現在も寺内という苗字の家があります。

02 寺内町は、

岡崎—東町—南岡町—教行寺—西之町—西富田

|

横町

03 寺内町は、戦国時代から安土桃山時代にかけて、一向宗門徒により、町がおさめられていました。御坊之内という地名が今も残っています。